第三辑

# 日语偏误与日语教学研究

Journal of Errors in Use of Japanese and Japanese Language Teaching

日语偏误与日语教学学会 编

浙江工商大学出版社

Journal of Errors in Use of Japanese and Japanese Language Teaching

# 日语偏误与日语教学研究

## 第三辑

日语偏误与日语教学学会 编

浙江工商大學出版社
ZHEJIANG GONGSHANG UNIVERSITY PRESS

**图书在版编目(CIP)数据**

日语偏误与日语教学研究. 第三辑 / 日语偏误与日语教学学会编. —杭州:浙江工商大学出版社, 2018.7

ISBN 978-7-5178-2858-7

Ⅰ. ①日… Ⅱ. ①日… Ⅲ. ①日语—教学研究—文集 Ⅳ. ①H369-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2018)第154693号

**日语偏误与日语教学研究　第三辑**

日语偏误与日语教学学会 编

---

**责任编辑**　姚　媛
**封面设计**　林朦朦
**责任印制**　包建辉
**出版发行**　浙江工商大学出版社
(杭州市教工路198号　邮政编码310012)
(E-mail:zjgsupress@163. com)
(网址:http: / /www. zjgsupress. com)
电话:0571-88904980,88831806(传真)
**排　　版**　杭州朝曦图文设计有限公司
**印　　刷**　虎彩印艺股份有限公司
**开　　本**　710mm×1000mm　1/16
**印　　张**　12.25
**字　　数**　188千
**版 印 次**　2018年7月第1版　2018年7月第1次印刷
**书　　号**　ISBN 978-7-5178-2858-7
**定　　价**　35.00元

---

**版权所有　翻印必究　印装差错　负责调换**

浙江工商大学出版社营销部邮购电话　0571-88904970

主　　编　于　康(关西学院大学)
副　主　编　林　璋(福建师范大学)
　　张佩霞(湖南大学)
本期责任主编　于　康(关西学院大学)
本期执行编委兼审稿人　(以汉语拼音为序)
　　夛田美有紀(长崎大学)
　　高永茂(广岛大学)
　　林　璋(福建师范大学)
　　吕雷宁(上海财经大学)
　　毛文伟(上海外国语大学)
　　朴秀娟(神户大学)
　　杉村泰(名古屋大学)
　　徐爱红(中山大学)
　　杨晓敏(复旦大学)
　　于　康(关西学院大学)
　　于一乐(滋贺大学)
　　张佩霞(湖南大学)
　　张　威(中国人民大学)
　　佐藤暢治(广岛大学)
秘　书　处　662-8501 西宫市上ヶ原一番町1-155
　　関西学院大学国際学部 于康研究室内
秘　书　长:熊仁芳(北京第二外国语学院)
副 秘 书 长:朴丽华(北京第二外国语学院),朴秀娟(神户大学),
　　黄毅燕(福建师范大学)
投稿用邮箱:goyouken@163.com

# 目　录

【研究论文】

日本語母語話者と日本語学習者の語りの発達
—比較文化心理学と応用言語学の視点から眺めた言語教育—
……南雅彦 / 003
学習者の誤用と言語運用をどう捉えるか?
—認知的アプローチの教室習得研究の見地から—
……小柳かおる / 032
日本語学習者の誤用産出のメカニズム
—学習者の文法・教師の文法— ……迫田久美子 / 053
格助詞「に」の用途をあらわす用法に関する研究
—格助詞「に」+動詞「使う」の事例を中心に—
……高永茂　劉　傑 / 070
中国語と日本語におけるアスペクト複合動詞の習得
—「有界的」認知からみた中国語・日本語双方向学習者コーパスの分析— ……望月圭子 / 083

【论　坛】

「もちろん相手は自然だから100%的中するわけはないが、せめてその災害を小さくにできるのなら、幸いなことだ。」錯在哪里?
……于　康 / 103
「『おいてください』と『召し上がる』という尊敬の意を表す言葉が用いられているために、その主語『あなた』が省略される。」錯在哪里? ……肥田栞奈 / 107
「その内容は非常に多くて、ただ半年間だけは、すべてが身につ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

くわけがないと思う。」错在哪里? ……林　璋 / 112
「私も新しい友達ができました。」错在哪里? ……吕　芳 / 116
「二三回のクリックのみすべての内容が目の前に現れる。」错在哪里? ……徐爱红 / 120
「大学を卒業したあとで、私は日本へ旅行するつもりです。」错在哪里? ……黄毅燕 / 124
「最後に、4年間の大学生活において、さまざまなご助言と御鞭撻をくださった担任の周先生に、深謝を申し上げます。」错在哪里? ……毋育新 / 130
「毎日の勤務時間はきっと10時間超えると思う。」错在哪里? ……高山弘子 / 134
「両方の両親を養って、子供を産んで、みんな幸せになれるように努力する。」错在哪里? ……向坂卓也 / 138
「セールの夏市もせいぜい9時半までしかないんですけど、一次会、二次会が続いて、深夜まで町ではやっぱりにぎやかです。地下鉄の中では、昼間はすごく静かですが」错在哪里? ……野村登美子 / 142
「大学入学試験ではいい成績を取ると、大学入学ができます。」错在哪里? ……高永茂 / 145
「男と女とも使える。ただし、『僕』は男性だけで使える。」错在哪里? ……裴　丽 / 149
「日本の文化もある程度で日本の孤独死の多発に影響を及ぼしたのではないであろうか。」错在哪里? ……陈昌柏 / 154
「私にとって、彼はその事に反対しません。」错在哪里? ……杉村泰 / 158
「場合によって地方セミナーを行う際、著名な先生により講義や、デモ、質疑応答などをしてもらうことは有意義だと思う。」错在哪里? ……金稀玉 / 161
「島国の資源の乏しさによって生み出された危機意識のため、日本人はずっと勤勉家の代名詞である。」错在哪里? ……刘凤荣 / 165
「この宝くじに当たった話は単なる夢です。でも、自分の手を通

じて、金持ちになれます。ずっと信じています。」错在哪里?
……杨　玲 / 170
日语偏误与日语教学学会/日本語誤用と日本語教育学会　会則
…… / 174
日语偏误与日语教学学会/日本語誤用と日本語教育学会　組織構成
…… / 177
2018年大会組織委員会と学会賞選考委員会 …… / 179
入会案内 …… / 180
投稿規定 …… / 182
査読規定 …… / 185
编后记 …… / 186

# 研究论文

# 日本語母語話者と日本語学習者の語りの発達
## —比較文化心理学と応用言語学の視点から眺めた言語教育—

南雅彦(サンフランシスコ州立大学)

**要　旨**　語りには,体験談や絵画ストーリーなど複数のジャンルがある。語り手・書き手はどのように語りを展開するのだろう。また,時制や態などをどのように用いながら,語り手は節や文を構築しているのだろう。本稿では,聞き手・読み手に話の内容を適切かつ効果的に明示するための語りの双子のエンジンの役割を果たしていると考えられる「一貫性」(語りにおける論理展開のまとまり)を量的(定量的)に,「結束性」(節や文の相互関係,場面同士の連鎖的構造)を質的(定性的)に考察する。一貫性は主として話のグローバル・レベル(全体構造),一方,結束性はローカル・レベル(発話・文構造)で語りの生成に貢献している。すなわち,一貫性は談話構造,結束性は談話機能を指し示している。本稿の主眼は,一貫性と結束性に着目することで,異なる言語の持つ異なる文法と,そうした異なる文法によって生成された発話が意図する意味,つまり文法と意図(もしくは意味)の理解を促進することである。

**キーワード**　一貫性,語りのジャンル,共感度,結束性,視点(視座)

## 1. はじめに

学習者の誤用は,単なる誤用ではなく,自らが構築した仮説を検証しようと試行錯誤している結果である。本稿では,比較文化心理学と応用言語学の視点から,成人日本語学習者の語りに認められる「誤用」を含めた諸問題を論じる。まず,文化はコミュニケーションのさまざまな様相に関わっている。それゆえ文化と言語の密接な関係に注目することなく,言語の獲得や学習などの言語活動の最終目標・到達点であるコミュニケーションを論じることは不可能だろう。文化は言語構造や機能に多大な影響を与えており,言語は文化の所産・具現化と言っても過言ではない。言語を理解しなければ文化理解は不十分であり,言語の背景にある文化を理解しなければ言語を十分には理解できないという循環が存在する。こうした意味で,言語は我々個々の人間の思考,ものの見方,さらには世界観を表現する手段であり,そうした言語手段に影響を与えている背景としての文化を理解することは,重要な意味を持つと考えられる。

文化こそ言語の獲得や学習の礎となるものだが,それだけにとどまらない。歴史的に,言語学の分析では音素/音韻論・形態素論・統語論・意味論というように言語をいくつかのレベルに分けて研究してきた。Noam Chomskyが生成理論を提唱して以来,現代言語学では「言語は人間にとって生得的なものである」という普遍性の追及が言語分析の主流となった(Chomsky 1957,1965)。しかし,それと同時に,Hymes(1972,1974)が主張するように,現実社会で言語がコミュニケーション手段としてどのような役割を果たしているのかという言語固有性,さらには文化的固有性を,比較文化心理学の視点から検証する必要がある。

次に,応用言語学は,言語の獲得や習得ならびに言語教育を研究対象とする分野だと理解されており,応用言語学の伝統的な領域である第二言語習得や外国語学習を検討することが主たる領域を占めていることは議論の余地がない。しかしながら,応用言語学をより広範に捉えて,言語関連の現実的な諸問題を調査し特定する,さらには可能な解決策を提供しようとする言語研究,すなわち,学際

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

的なフィールドだと捉えることは可能だろう。つまり,応用言語学の伝統的な捉え方よりもさらに一歩踏み込んで,多様な分野,言語学理論,方法,および知見のさまざまな分野への適用を推し進めるという立場から,言語の諸様相を考えてみたい。たとえば,第二言語習得や外国語教育に関連する問題からは,2つの異なるスピーチ・コミュニティそれぞれで,どのような文法的・文化的選択肢が好まれるのかという潜在的な認識を概念化することが可能だろう。しかし,第二言語・外国語(L2)の熟達は文脈に応じたものであり,たとえば,語り(ナラティヴ)のタスクを使用することは,応用言語学の従来のフィールド境界の限界を明らかにする可能性がある。談話分析や社会的な変数に焦点を当てた研究など,第二言語・外国語習得の新しい理論を組み込むことで,従来の外国語学習の教室で使用されてきた文法・語彙アプローチよりも効果的な教授法を開発することに役立つだろう。

## 2. 語り(ナラティヴ)とは

我々は,「空間的・時間的に距離のある事象を語ることは普遍的だ」という暗黙裏の,もしくは明示的な前提に立っている。しかし,たとえば,口頭産出の語り(オーラル・ナラティヴ)のような音声言語ばかりでなく,翻訳などの書記言語を眺めてみても,言語レベル・語りのレベルでの文化的・言語的固有性は存在する。ここでは,言語使用に関する研究や言語構造と社会的コンテキスト(文脈:コンテクスト)との関係を研究する分野である語用論の立場から,「テキスト」と「語り」,広範な意味では「ディスコース」の機能に焦点を当てる。語りにおける論理展開のまとまり,すなわち「一貫性(coherence)」と,節や文の相互関係,話の連鎖的構造における場面同士の「結束性(cohesion)」は,語り手・書き手が聞き手・読み手に話の内容を適切かつ効果的に明示するための語りの双子のエンジンの役割を果たしていると考えられる。これは,語りのようなコミュニケーションとしての言語では,グローバルなテキスト・レベルの巨視的(マクロ)視点と,ローカルな文レベルの微視的(ミクロ)視点の有機的,機能的な関係が成り立っていなければならないからで

ある。

## 3. 語りの分析(ナラティヴ分析)

本稿で提示する研究は,外国語もしくは第二言語(L2)によるディスコースという枠組みの中での語り・認知・文化などの諸問題への取り組みの報告である。一般的に,語りは論理的および時間的に関連する一連の出来事を語る方法として定義できよう(Berman 2004;Ervin-Tripp and Küntay 1997;Labov 1972,1997,2013)。しかし,現実には,架空のストーリー・テリングやスクリプトばかりでなく,個人的な逸話など,さまざまなディスコース・ジャンルが語りに含まれる。語りが人に遍く共通するコミュニケーションもしくは伝達手段だとしても,ここで記憶にとどめておきたいのは,すべての文化圏の人々が同じように語りを構築するとは限らないという認識の重要性である。

### 3.1 一貫性(coherence)

まず,「一貫性」は主として話のグローバル・レベル,つまり,話の全体的な構造を指すが,語彙・意味を持った句・文・語り・談話の構成規則など,文化は我々が使用する言語に広範な影響を与えている。我々は日常生活の中で「語る」という行為を頻繁に行っている。昨日たまたま経験したこと,ずっと以前に遭遇した経験で今も心に深く残っていることなど,さまざまな過去の体験を誰かに伝えたいものである。しかし,上述したように,こうした人間の普遍的な特性に深く根ざしているのは,文化特有,あるいは言語特有の語りのスタイルである。たとえ自らの母語とは異なる言語を「知っている」としても,その言語で語られる理解困難な語りに遭遇してしまう可能性は否定できない。こうした状況は,我々が大人へと成長してゆく「社会化」もしくは「自文化化(文化化)」の過程で,自らの文化的フィルターを通して世界を見る傾向が増すからである。要するに,文化的フィルターは世界を特定の方向から認知するレンズなのである。我々が成長するにつれて,こうした文化的フィルターは幾重にも重なり,成人になるまでに,自らが居住している社会・文化

の中で他の居住者と同様のフィルターを共有するようになる。このようにして,認知,社会化,そして語りは,文化という媒体を通して互いに密接な関係を築くのである。

### 3.2 ラボビアン内容(機能)分析モデル

本研究,とりわけ一貫性に深く関わる研究として,社会言語学者William Labovによる一連の研究とその影響を受けた研究を取り上げたい。Labovは文化的,言語的接触面を調査することによって口頭発話による体験談(個人的経験物語)調査という分野を開拓し画期的な研究を行った(Labov 1972)。Labovの貢献は,統語レベルにとどまるのではなく,連続的な文脈(コンテクスト)という言語形式レベルへのパラダイム・シフトにおいて果たした重要な役割である。具体的には,日常での口頭の語りを,①(後景・背景描写)設定・方向付け(誰が,いつ,どこで,何を)例「八歳のときでした」,②(前景描写)出来事(起きた事件は具体的に何なのか)例「家に入って,それを全部あけて」,③(後景描写)評価(語り手の気持ちはどうだったのか,話の意味は何なのか)例「けど,痛かった」,などの構成要素を用いて体系的に分析することで文化的な影響を受けない普遍的カテゴリーを特定したことである。つまり,多様な年齢・社会階級・民族といった変数の結果としてのさまざまな言語スキルを説明するには,個々の発話(文章)レベルの分析では不十分だとLabovは主張したのである。Labovが論じる「普遍性」は,異文化調査(例:Kang 2003,2006)や言語発達調査(例:Minami 2002;Peterson and McCabe 1983)のための基盤となるツールを提供することによって,ナラティヴ分析における研究の新たな扉を開き,年齢層・社会階級・民族などの異なるグループの語りに広く適用することを可能にしたのである。

### 3.3 日本語の体験談分析:語りの三部作

一貫性を調査する目的で,口頭発話による個人的な体験談(パーソナル・ナラティヴ)を3つのレンズを通して分析した三部作を紹介する。これら三部作はそれぞれ独立しながらも相互に密接に関

連しており,ナラティヴ・ディスコースという共通の枠組みを用いながら,語り・認知・文化に関連する諸問題を明確にしてゆくものである。異文化の人々と意思疎通を図ることは容易ではないかもしれないが,異なる言語での語りを比較することによって明瞭になることは多々ある。文化的に固有なコミュニケーション能力の獲得は,言語獲得のプロセスと語りのための談話スキルの開発において重要な役割を果たしている。三部作は,日本語を母語とする子どもと成人,そして成人日本語学習者の語りの能力の比較を通して,認知的成熟と言語的な障壁の潜在的な関係を特定することで,第一言語(L1)と第二言語(L2)の間に存在するギャップを埋めようと努めるものである。具体的には,ラボビアン内容(機能)分析モデルを定量的に用い,以下の疑問に答えようとするものである。

1)語りの骨格となる前景描写の「出来事」,肉付けとなる後景(背景)描写の「設定・方向付け」や「評価」などの構成要素が語りに占める割合は,日本語を母語(L1)とする幼児と成人母語話者で異なるのだろうか。

2)語りの骨格(前景)をなす「出来事」,肉付けとなる「設定・方向付け」や「評価」などの構成要素が語りに占める割合は,成人日本語学習者(すなわち,第二言語もしくは外国語学習者)と日本語を母語とする幼児や成人母語話者で異なるのだろうか。

3)語りの骨格である「出来事」,肉付けである「設定・方向付け」や「評価」などの構成要素が語りに占める割合は,選択する話題(トピック)で異なるのだろうか。

### 3.3.1 第一の研究:母語話者の語りから認められる語りの発達

第一言語での語りの発達を論じる第一の研究(Minami2015a: Handbook of Japanese Psycholinguistics 第6章"Narrative Development in L1 Japanese")では,日本語を母語とする就学前の児童(4歳児,5歳児)とその母親の語りに焦点を当てた[①](図1参照)。成人母

① 第一の研究では,幼児の「独り語り(モノローグ)」ばかりでなく,母親との共同構築による語り(ダイアローグ)を分析し,文化的に望ましいと思われる語りの引き出し方のパターンを特定し,共同構築での語りが言語発達に及ぼす影響も調査した。つまり,共同構築の語りの背後にある文化伝達も調査した。

語話者(母親)と比較すると,4歳児では「出来事」が語りに占める割合が高かった,$t(28) = 5.21$, $p < .0001$。同様に,5歳児でも「出来事」の語りに占める割合が高かった,$t(12)$[①] $= 3.58$, $p < .004$,つまり,子どもは語りの骨格部分である前景描写に重点を置いていた。

一方,4歳児と比べて,成人母語話者の語りでは,「設定・方向付け」や「評価」などの後景(背景)描写の占める割合が高かった,$t(28) = 4.53$, $p < .0001$。5歳児と比べても,成人母語話者の語りでは後景描写の占める割合が高かった,$t(28) = 3.43$, $p < .002$。

語りの肉付け部分である後景描写に関してさらに詳細に報告すると,まず「設定・方向付け」の占める割合の違いが顕著だった。4歳児と比べて,成人母語話者の語りでは「設定・方向付け」の占める割合が高かった,$t(28) = 2.79$, $p < .01$。5歳児と比べても,成人母語話者の語りでは「設定・方向付け」の占める割合が高かった,$t(28) = 3.22$, $p < .003$。

しかし,同じ就学前の児童とはいえ,4歳児と5歳児の語りには違いが認められた。「評価」の占める割合の違いは,成人母語話者と4歳児との比較では明らかだった,$t(28) = 3.02$, $p < .005$。つまり,成人母語話者は語りの肉付け部分である「評価」に重点を置いていることがわかった。しかし,成人母語話者と5歳児の語りの「評価」の占める割合では統計的有意差は認められなかった,$t(12) = 1.00$, ns。言い換えれば,4歳児と比較すると,5歳児のほうが後景描写の「評価」をより多く語っており,そうした意味では,5歳児は成人母語話者により近づいていると言えよう。

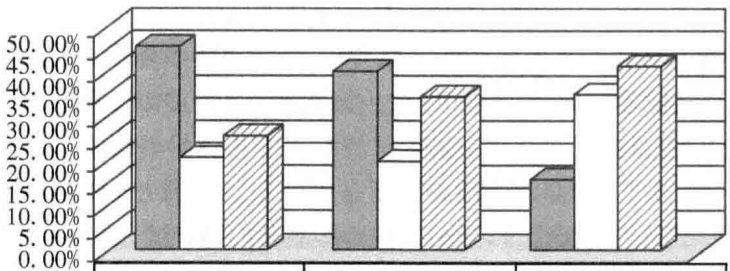
この知見は,語りの異なるジャンルである『カエルくん,どこにいるの?(Frog, Where Are You?)』という24場面からなる文字のない絵画ストーリー(Mayer1969)を使用してBerman and Slobin(1994)が異なる5言語(英語・ドイツ語・スペイン語・ヘブライ語・トルコ語)の3歳児,4歳児,5歳児,9歳児,成人母語話者を対象として行っ

---

① 自由度が異なる場合が存在する。これは,検定対象となる2つの実験群のデータの分散が等しくない場合の$t$検定関数を使用したからである。

た語りのL1発達過程の言語普遍性と言語固有性調査から得られた知見ときわめて酷似している。端的に言えば,言語発達の過程では,まず前景描写の時系列的な説明ができるようになり,評価を含めて因果律的な説明,つまり後景描写は加齢にしたがって増加していくのだろうと推測できる。

しかし,第一の研究では,子どもにはケガをした経験を語ってもらい,その一方で,大人には幼い頃の体験で一番印象に残った思い出を語ってもらっている,つまり,語りのトピック(話題)が異なっている。では,異なるトピックで,語り手はどのように異なる情報を語りに含むのだろうか。これが次の研究への橋渡しとなる。




| | 4歳児 | 5歳児 | 成人母語話者 |
|---|---|---|---|
| ■出来事 | 45.65% | 39.98% | 16.02% |
| □設定・方向付け | 20.76% | 19.98% | 34.84% |
| ▨評価 | 25.70% | 34.31% | 41.22% |

**図1 日本語母語話者(就学前児童 4歳児, 5歳児)と成人日本語母語話者の比較**

### 3.3.2 第二の研究:母語話者と成人日本語学習者の語りの比較

第二の研究(Minami 2015b:Handbook of Narrative Analysis第4章"Narrative, Cognition, and Socialization")でも,子どもの母語である日本語での語りの発達を調査している。しかし,第二の研究では,成人日本語母語話者との比較ではなく,英語を母語とする成人日本語学習者との比較を通して調査した。第一言語(L1)としての日本語と第二言語(L2)としての日本語という比較は,学習者の目標言語での語りの習熟という視点から捉えると,日本語母語話者(児童な

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com